

(個人)

(報告：田 中)

荒 島 岳 (1, 523m) (福井県)

【日 時】平成25年10月3日(木)～4日(金)

【メンバー】P & L 田 中

(計 1 名)

【行動記録】

大宮(3日21時24分)―(圏央道・中央道)―土岐JCT(4日1時48分)―勝原(4時5分・仮眠)―勝原スキー場(5時55分)…シャクナゲ平(8時23分)…荒島岳(9時34分～10時8分)…シャクナゲ平(11時2分)…勝原スキー場(12時50分)

上り 3時間18分 下り 2時間25分 計5時間43分

【装備・食料等】

【個人】ヘッドランプ、雨具、防寒着、コンパス、地図、ツェルト、水、昼食

【感想】

日本百名山完登を目標に山登りをしているハイカーは多い。私も意識していないわけでないが、確かに登ってみるといい山が多い。しかし、山はその時々で表情が違ふ。季節や天候により受ける印象はまったく違ったものになる。だから、一度登っただけで、その山を評価できるものでない。百名山に選ばれていない山でも感動する山はある。百名山は、山の品格、歴史、個性(＋高さ)を基準に選出しているとのことだが、歴史以外は私感も入ってくるだろう。たくさん登ってみて、自分がいいと思った山を名山と評価していけばいいと思う。数にもこだわりたくない。百より多くても少なくともいいと思う。勝原には、まだ夜の明けきらぬ時間に到着した。秋の夜空に、星が身近に感じる高さまで下りてきている。これまで見てきた星は点に近いもの感じていたが、この日見た星はガラスの煌めきのような広がり周りに漂わせている。空気がきれだと、自然はより美しく感じる。どの百名山も登山道が整備され、北アルプスでは山小屋で都会にいるような飲食物が手に入る。うれしく思うこともある。しかし、それが山を評価する基準には当然ならない。私なりに、名山と呼べる山の価値をどの尺度で測っていくのかももう一度考えてみたい。

